

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系 准教授

氏 名 池田 吉史

研究期間 令和4年度～令和5年度

研究プロジェクトの名称	小学校と連携した特別な教育的ニーズのある子のチーム支援プログラムの開発
研究プロジェクトの概要	<p>本研究は、地域の小学校と連携して、小学校の通常の学級に在籍している特別な教育的ニーズのある子どもの学習支援プログラムを開発することを目的とした。本研究の特色として、①地域の小学校をフィールドとして地域の小学校に通う児童を対象とすること、②特別支援教育を専門とする大学教員及び小学校教諭が連携すること、③大学院授業科目として実施することが挙げられる。本研究の意義として、①特別な教育的ニーズのある児童に対して継続的な学習支援を提供できること、②通常学級と連携した「通級による指導」を想定した学習支援を実施できること、③大学院生が理論に基づいた高度な教育実践力を学修できることが挙げられる。本研究を通して期待される成果は、①小学校における特別支援教育推進モデルの提案、②大学院生の学校実習モデルの提案である。</p>
研究成果の概要	<p>インクルーシブ教育システム構築に向けて、通常学級における特別支援教育の充実が求められている。特に、特別な教育的ニーズのある子どもの実態の多様化と複雑化を踏まえ、理論に基づいた高度な支援方法の考案が期待されている。本研究では、小学校の通常学級における特別な教育的ニーズのある児童の学習支援プログラムの開発とその効果の検証を行うことを目的とし、特別な教育的ニーズのある小学校1年生児童を対象として大学院生を含む支援チームで支援を実施した。その結果、発達障害の生物-心理-社会モデルや学習面・生活面・社会面の3観点に基づく広範なアセスメントを用いること、個別の指導計画や日誌、カンファレンスを通じた教職員と専門スタッフとの連携・協働を図ること、そしてそれらの要素を取り入れて R-PDCA サイクルで支援を行うことによって、教育上の困難に対して包括的にアプローチすることが有用であることが示唆された。得られた成果は、小学校における特別支援教育推進モデルの提案及び大学院生の学校実習モデルの提案に資するものと考えられた。</p>
研究成果の発表状況 (※今後の予定も含む。)	池田吉史 (2024) 通常学級における特別な教育的ニーズのある子どもの教育上の困難に対する包括的アプローチ. 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要、30巻.
学校現場や授業への研究成果の還元について	研究成果は、大学院講義や免許認定講習、現職教員向け研修会等を通して広く公開する予定である。